

2012.04.19

「田中防衛相・前田国交相に問責案提出！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は4月19日です。昨夕、田中防衛大臣と前田国交大臣に対して、問責決議案が提出されました。本来ですと、今日、本会議を開いて問責決議を可決する運びになっていました。ところが、本日は園遊会が予定されており、国会の日程の調整がつきませんでしたので、明日金曜日に改めて本会議を開いて、問責決議は可決されることになっています。

そこで、問題はこの事態における新聞やテレビの報道です。特にNHKの報道が一番酷かったです。問責決議が可決される様子について街の声を聞きますと、「問責ばかり言って、政治が動かないのは良くない。」という声が先に出されていました。後で「適材適所だと言っているけど、実際は違うのではないか。」と仰る方も出ていましたが、最初に問責に対して疑問を感じている方を出すのは、非常に意図的であると私は思います。

国会を見ている方なら誰もがご存知でしょうが、田中防衛大臣は適材適所どころか、防衛大臣としての素養と能力に全く欠けていることは明らかです。特に、先日の北朝鮮のミサイル発射に対応する最高責任者であったのですが、官邸とのやり取りを含む報告を聞いていても、本当に信じられないと思うような対応ぶりでありました。これは田中防衛大臣だけではありません。官邸の女房

役である藤村官房長官は、自ら危機管理センターに下りて行って指揮を執ることもなく、一報を聞いてから30分以上、何もしていなかったということです。通常ならば、ミサイルは10分で沖縄に飛んでくるのです。今回はたまたま1分で爆発して墜ちたのですが、有事の場合でしたら、今回のようなことでは、全く対応できないのです。このように田中防衛大臣の問題があるにも拘らず、今まで参議院の予算委員会の質疑に協力してきたのです。遅すぎるぐらいの問責決議案の提出だと思っています。

それから、前田国交大臣ですが、この方に対して、私は非常に残念な思いなのです。彼は予算委員長もされていまして、よく存じております。人格の温厚な方で、国交省出身の方でありますから、国交行政につきましてはプロフェッショナルなのです。従いまして、八ツ場ダムも再開を決め、民主党のコンクリートから人へという流れとは逆に、政策の方向転換をしてきました。新東名が開通しましたが、近畿地方においては第二名神高速道路を建設し、国土強靱化のための複数の国土の軸を作っていくことが必要です。これは前原大臣に止められていましたが、これらをもう一度やる、という方向に引っ張っていかうとされていまして、誤った政策を直す、そのこと自体は評価できる方だと思っています。

前田国交大臣の問責の理由は以上の政策とは関係ありません。先日行われた下呂の市長選挙に、元民主党代議士で、かつて愛知県知事選挙に出られた石田

芳弘氏が下呂市長選挙に立候補しました。石田氏が出られるのはいいのですが、地元の民主党の山田良司衆議院議員から石田氏の推薦を依頼され、前田大臣が直筆のサインを書いて地元の観光業界等団体に対して支援をお願いする、事前運動に当たる行為をやってしまったのです。

前田国交大臣は、候補者との利益供与をほのめかす公職選挙法違反の疑いが強い内容の書類にサインしてしまったことに対して、意図的でないと説明しています。自ら署名しておいて、知らなかったから自分に責任はない、というのは通用しないことであり、責任ある立場としてあり得ないことです。残念ながら、前田国交大臣にも辞めて頂かななくてはならないのです。

このお二人には辞めて頂かなければならないのですが、どうしてこういう方々を大臣に任命したのか。特に、この安全保障の難しい時代に田中防衛大臣のような方を任命すること自体、誰が考えてもあり得ないわけであって、野田総理の任命責任、総理としての資質に欠けることが、このことから証明されます。

問責は、民主党政権になって6人目です。最初は菅政権の時代に、仙石氏と馬淵氏が問責決議をうけ、その後にすぐに替えて新しい大臣にしたのです。野田政権になってからは、皆さんお忘れになっているかもしれませんが、防衛政策に関して素人が防衛大臣を担当するのがシビリアンコントロールだと言った一川氏、マルチ商法疑惑がありながら消費者担当大臣になった山岡氏、両氏

は年末に罷免されました。交代した大臣が、防衛政策に対して又しても全くの素人である田中防衛大臣、選挙違反容疑のかかる書類にサインしてしまった前田国交大臣であります。野田政権は4人も問責を出されているのです。このままでは国会審議ができないじゃないか、ということなのです。これは政局にするためではありません。国会が田中大臣の為に何度止まっているのでしょうか。また、前田大臣がいくらまともな政策観を持っている方であっても、白昼に堂々と公職選挙法違反をやっているのであれば、示しがつかないのです。これらは、任命責任者として野田総理が責任を取らなければならない問題なのです。

野田総理の論法で、私が非常に如何わしく、許せないと思うのは、最終的には任命した自分に責任がある、と平然と言うところです。何でも、我々に責任があると言い、ではどう責任を取るのかと言えば、一生懸命やることが責任の果たし方であり、我々の使命であるという言葉に換えてしまうのです。

政治家の仕事は責任を取ることです。大臣のもとで仕事をするのは官僚達ですが、官僚達の不始末に対しても責任を取るのは政治家です。責任を取るということは、大臣を辞任することです。政治家が責任を取る姿勢を見せるからこそ、官僚達は思い切り働き、行政は動くのです。野田政権がやっているのは、逆さまのことで、責任を取れと追及すれば自分達の仕事をするのが責任だと言います。例えば、前田大臣の場合では自分にサインをさせた秘書の首を

切る。しかし、秘書を任命したのは前田大臣です。まっとうな責任の負い方を示すことで、国民や官僚たちとの信頼関係を築くということをまったく考えていないのです。

野田総理の論法というのは、口では責任はあるというが責任は取らないというものです。その結果として不道徳が日常茶飯事となっています。こういう不道徳が日常茶飯事となり、目の前で次々に行われていけば、ちょっとしたことで責任を取るのが馬鹿らしくなるのです。このようにけじめをつけることが、政治の信頼回復に大事なのです。このような問題をマスコミが報じるべきなのですが、報じない以上、我々がビデオレターを通じて伝えていくほかないと思っております。

明日、問責決議は可決されるでしょう。野田総理が速やかに2人の大臣を交代しない限り、国会は開けないのです。しかし、聞くところによりますと、本当なら消費税増税に政治生命をかけているというのだから、直ちに交代するはずなのですが、交代させない、と興石幹事長は言っているようなのです。これはなぜかといいますと、本当にずるいのですが、つまり興石幹事長達は消費税なんて増税したくないのです。野田総理達が消費税増税に命をかけるなんて言っているけれども、興石幹事長は何とも思っていない。もっと言うと、4月26日、この日に小沢氏の有罪か無罪かの判決が出ると言われています。そうすると、この方が有罪になるか無罪になるかによって消費税に対する党の態

度が一変してしまう可能性がある。いっそのこと連休明けまで待てばいいじゃないか、小沢氏の様子も見よう、なんていうことを考えている節があるのです。そうすると審議期間が二、三週間とんでしまいますから、結局彼らは、唐突に消費税増税をぶち上げておきながら審議する気もないということです。ですから、このことも含めて、今後彼らがどういう行動に出るのか注視して頂きたいと思います。

こんな出鱈目な内閣はもうこれ以上、容認することはできません。2人の大臣に対する問責を出しましたが、野田総理自身に問責を出すことを皆様に宣言し、本日のビデオレターを終わります。

本日も御覧頂きありがとうございました。